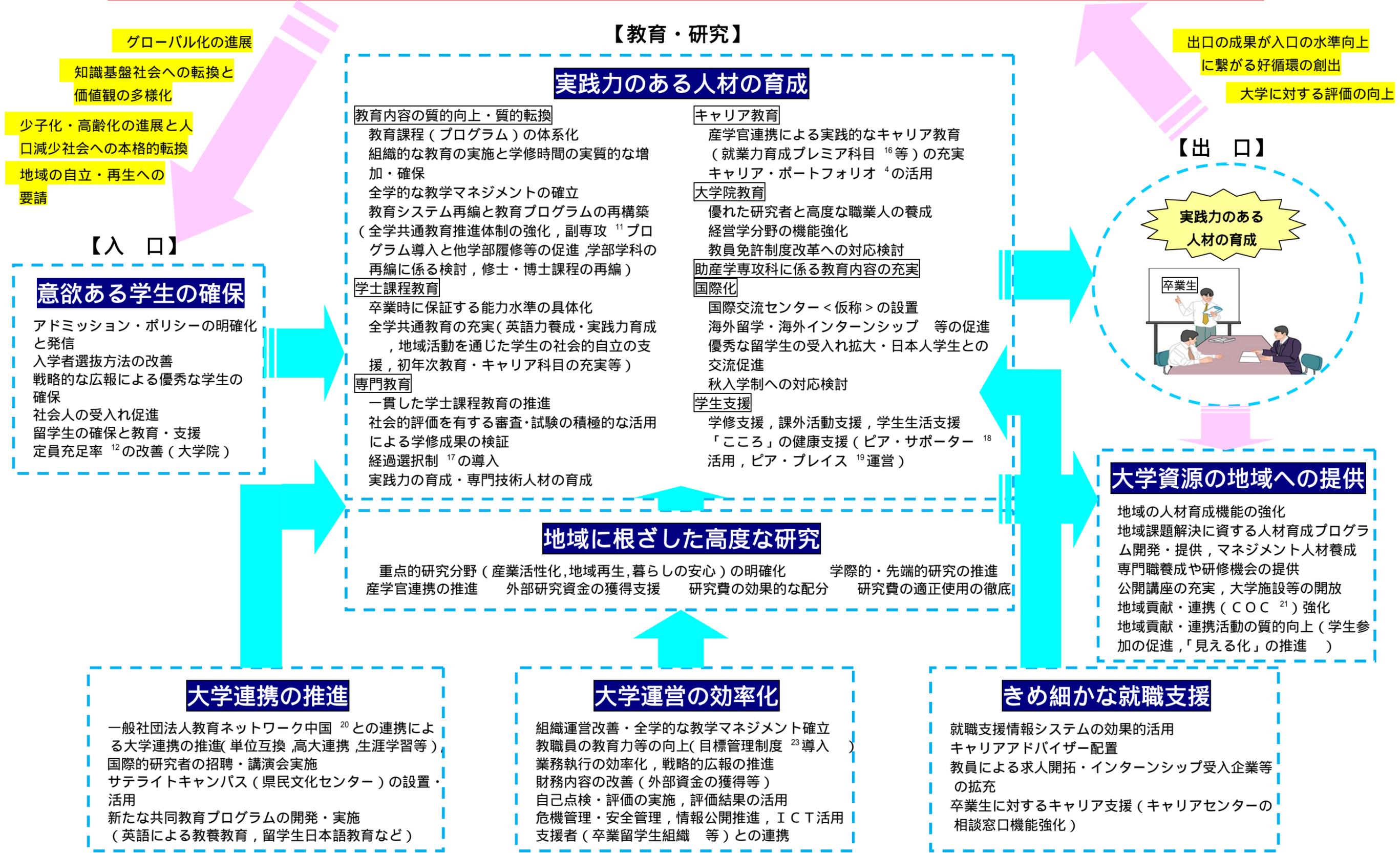


# 公立大学法人県立広島大学第二期中期計画の概要

H25.3.27

...新たな取組

**基本理念「地域に根ざした，県民から信頼される大学」**  
**中期目標「グローバル化が進む社会経済環境の中で，企業や地域社会において活躍できる実践力のある人材を育成し，地域再生・活性化の核となる大学を目指す」**



## グローバル化の進展

知識基盤社会への転換と  
価値観の多様化

少子化・高齢化の進展と人口減少社会への本格的転換

地域の自立・再生への要請

## 【入口】

### 意欲ある学生の確保

アドミッション・ポリシーの明確化と発信  
 入学者選抜方法の改善  
 戦略的な広報による優秀な学生の確保  
 社会人の受入れ促進  
 留学生の確保と教育・支援  
 定員充足率<sup>12</sup>の改善(大学院)

## 【教育・研究】

### 実践力のある人材の育成

#### 教育内容の質的向上・質的転換

教育課程(プログラム)の体系化  
 組織的な教育の実施と学修時間の実質的な増加・確保  
 全学的な教学マネジメントの確立  
 教育システム再編と教育プログラムの再構築(全学共通教育推進体制の強化，副専攻<sup>11</sup>プログラム導入と他学部履修等の促進，学部学科の再編に係る検討，修士・博士課程の再編)

#### 学士課程教育

卒業時に保証する能力水準の具体化  
 全学共通教育の充実(英語力養成・実践力育成，地域活動を通じた学生の社会的自立の支援，初年次教育・キャリア科目の充実等)

#### 専門教育

一貫した学士課程教育の推進  
 社会的評価を有する審査・試験の積極的な活用による学修成果の検証  
 経過選択制<sup>17</sup>の導入  
 実践力の育成・専門技術人材の育成

#### キャリア教育

産学官連携による実践的なキャリア教育(就業力育成プレミアム科目<sup>16</sup>等)の充実  
 キャリア・ポートフォリオ<sup>4</sup>の活用

#### 大学院教育

優れた研究者と高度な職業人の養成  
 経営学分野の機能強化  
 教員免許制度改革への対応検討

#### 助産学専攻科に係る教育内容の充実

#### 国際化

国際交流センター<仮称>の設置  
 海外留学・海外インターンシップ等の促進  
 優秀な留学生の受入れ拡大・日本人学生との交流促進

#### 秋入学制への対応検討

#### 学生支援

学修支援，課外活動支援，学生生活支援  
 「こころ」の健康支援(ピア・サポーター<sup>18</sup>活用，ピア・プレイス<sup>19</sup>運営)

### 地域に根ざした高度な研究

重点的研究分野(産業活性化，地域再生，暮らしの安心)の明確化  
 学際的・先端的研究の推進  
 産学官連携の推進  
 外部研究資金の獲得支援  
 研究費の効果的な配分  
 研究費の適正使用の徹底

出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出

大学に対する評価の向上

## 【出口】

### 実践力のある人材の育成



### 大学資源の地域への提供

地域の人材育成機能の強化  
 地域課題解決に資する人材育成プログラム開発・提供，マネジメント人材養成  
 専門職養成や研修機会の提供  
 公開講座の充実，大学施設等の開放  
 地域貢献・連携(COC<sup>21</sup>)強化  
 地域貢献・連携活動の質的向上(学生参加の促進，「見える化」の推進)

### 大学連携の推進

一般社団法人教育ネットワーク中国<sup>20</sup>との連携による大学連携の推進(単位互換，高大連携，生涯学習等)  
 国際的研究者の招聘・講演会実施  
 サテライトキャンパス(県民文化センター)の設置・活用  
 新たな共同教育プログラムの開発・実施(英語による教養教育，留学生日本語教育など)

### 大学運営の効率化

組織運営改善・全学的な教学マネジメント確立  
 教職員の教育力等の向上(目標管理制度<sup>23</sup>導入)  
 業務執行の効率化，戦略的広報の推進  
 財務内容の改善(外部資金の獲得等)  
 自己点検・評価の実施，評価結果の活用  
 危機管理・安全管理，情報公開推進，ICT活用  
 支援者(卒業留学生組織等)との連携

### きめ細かな就職支援

就職支援情報システムの効果的活用  
 キャリアアドバイザー配置  
 教員による求人開拓・インターンシップ受入企業等の拡充  
 卒業生に対するキャリア支援(キャリアセンターの相談窓口機能強化)

【用語説明】

	用語	説明
1	学位授与方針等3つの方針	ULR:http://www.pu-hiroshima.ac.jp/01_hongaku/07_disclosure/index.html
2	ピア・レビュー	教員同士が互いの授業を公開し合い、授業内容や方法について検討し合うこと。
3	F D (ファカルティ・ディベロップメント)	教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。大学設置基準等においては、こうした意味でのF Dの実施を各大学に求めている。
4	キャリア・ポートフォリオ	学生が、自らのキャリア形成について、自分自身で考え、ふり返り、充実した大学生活をデザインしていくことを支援するために、大学での学びや課外活動で身につけた力を可視化するシステム。目標設定とふり返りに係る活用(記述・更新等)が随時できる。
5	G P A制度	授業科目ごとの成績評価を5段階(A+・A・B・C・D)で評価し、それぞれに対して4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与し、この単位当たり平均を出す、学生の成績評価方法の一種。
6	C A P制	単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。大学設置基準上の1単位の学修時間(予習・復習等を含めて45時間)を確保し、単位の実質化を図る取組。
7	G P C	教員が学生に対して行った成績評価の授業科目(又はクラス)ごとの平均を算出したもの。G P Aは学生個人の学修成果の指標であり、G P Cは教員の教育活動の指標となる。
8	シラバス	各授業科目の詳細な授業計画。授業内容の概要を総覧するコースカタログとは異なり、各回の授業内容、準備学修等についての具体的な指示、到達目標、成績評価の方法・基準、参考文献などを含む。
9	汎用的能力	各専攻分野を通じて培う学士課程共通の「学修成果」の要素。知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能で、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力など。
10	全学支援体制	本学の学部・センターに所属する全ての教員が全学共通教育の運営を支援する体制。
11	副専攻	基本的には、主専攻分野以外の分野の授業科目を体系的に履修させる取組であって、規程の整備等により組織的に行われているものをいう。
12	定員充足率	在籍者数/入学定員×100
13	eラーニングシステム	インターネットやイントラネットなどを利用した教育・学修システム。
14	アクティブ・ラーニング	教員が一方向的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やディスカッション、プレゼンテーションなど、学生の能動的な学修を取り込んだ授業の総称。
15	学外実習・学外実践等科目	インターンシップ、ボランティア活動、臨地実習、教育実習、博物館実習を含む。学科が科目指定。
16	就業力育成プレミアム科目	平成22年度文部科学省補助事業「大学生の就業力育成支援事業」(平成24年度から「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」)の中で開講した正課外のキャリア科目。技術や知識の社会応用に関する理解と実践的意識・態度・能力の修得を目指す科目。
17	経過選択制	募集単位を大きくくり化(例えば、学部単位)し、学生が大学入学後に幅広い分野の大学教育に触れながら自らの適性や関心等に基づき、2年次又は3年次に専攻分野を決めることができる制度。
18	ピア・サポーター	学生同士の相談活動や学修支援等のピア・サポート活動を行う、あらかじめ研修を受けた学生。
19	ピア・プレイス	心理的不適応等の諸問題を抱えた学生などが、学内で安心して過ごせる場。
20	一般社団法人教育ネットワーク中国	広島県内外の大学・短期大学・高等専門学校・教育委員会等によるコンソーシアム(正会員数:36)。
21	C O C	Center of Community。文部科学省は、大学改革実行プラン(平成24年)で地域と大学の連携強化等、地域再生の核となる大学づくりを、大学改革の方向性、大学の機能の再構築の一環で求めている。
22	S D (スタッフ・ディベロップメント)	職員を対象に、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質を向上させるための組織的な取組の総称。
23	目標管理制度	期初に設定した目標を基に自己の業務を遂行し、期末にその達成度合を評価する制度。
24	ラーニングコモンズ	自律的な学修を支援し、知識の創造を促す、図書館の新しい学修空間。

【数値目標】

部局等	項目	達成目標	
人間文化学部	学外実習・学外実践等科目履修率	95%(平成30年度)	
	標準修業年限内の卒業率	90%(各年度)	
	標準修業年限の1.5倍以内の卒業率	95%(各年度)	
	卒業時の総合的満足度	85%(各年度)	
	(健康科学科)	管理栄養士国家試験の合格率	95%(各年度)
	(国際文化学科)	卒業時までにTOEIC700点以上到達者の割合	30%以上(平成30年度)
	(同上)	卒業時までに中国語検定2級レベル以上到達者の割合	10%以上(平成30年度)
	退学者の割合(入学から標準修業年限内)	3%以下(各年度)	
	退学者の割合(入学から1年以内)	1%以下(各年度)	
	就職支援に対する卒業時の満足度	90%(各年度)	
	進路(就職・進学)決定率	90%(各年度)	
	就職希望者の就職率	100%(各年度)	
	経営情報学部	学外実習・学外実践等科目履修率	95%(平成30年度)
		標準修業年限内の卒業率	90%(各年度)
標準修業年限の1.5倍以内の卒業率		95%(各年度)	
卒業時の総合的満足度		85%(各年度)	
卒業時の情報処理技術者試験合格率		60%(各年度)	
退学者の割合(入学から標準修業年限内)		3%以下(各年度)	
退学者の割合(入学から1年以内)		1%以下(各年度)	
就職支援に対する卒業時の満足度		90%(各年度)	
進路(就職・進学)決定率		90%(各年度)	
就職希望者の就職率		100%(各年度)	
生命環境学部		学外実習・学外実践等科目履修率	95%(平成30年度)
		標準修業年限内の卒業率	90%(各年度)
		標準修業年限の1.5倍以内の卒業率	95%(各年度)
		卒業時の総合的満足度	85%(各年度)
	中級バイオ技術者試験合格率	80%(各年度)	
	上級バイオ技術者試験合格率	60%(各年度)	
	退学者の割合(入学から標準修業年限内)	3%以下(各年度)	
	退学者の割合(入学から1年以内)	1%以下(各年度)	
	就職支援に対する卒業時の満足度	90%(各年度)	
	進路(就職・進学)決定率	90%(各年度)	
	就職希望者の就職率	100%(各年度)	
	保健福祉学部	学外実習・学外実践等科目履修率	95%(平成30年度)
		標準修業年限内の卒業率	90%(各年度)
		標準修業年限の1.5倍以内の卒業率	95%(各年度)
卒業時の総合的満足度		85%(各年度)	
(看護学科)		看護師国家試験合格率	100%(各年度)
(同上)		保健師国家試験合格率	
(理学療法学科)		理学療法士国家試験合格率	
(作業療法学科)		作業療法士国家試験合格率	
(コミュニケーション障害学科)		言語聴覚士国家試験合格率	90%(各年度)
(人間福祉学科)		社会福祉士国家試験合格率	
(同上)		精神保健福祉士国家試験合格率	95%(各年度)
退学者の割合(入学から標準修業年限内)		3%以下(各年度)	
退学者の割合(入学から1年以内)		1%以下(各年度)	
就職支援に対する卒業時の満足度		90%(各年度)	
進路(就職・進学)決定率	90%(各年度)		
就職希望者の就職率	100%(各年度)		
助産学専攻科	助産師国家試験の合格率	100%(各年度)	
総合学術研究科	研究科全体の定員充足率	100%(各年度)	
	標準修業年限内の修了率	90%(各年度)	
	標準修業年限の1.5倍以内の修了率	95%(各年度)	
	修了時の総合的満足度	85%(各年度)	
	退学者の割合(入学から標準修業年限内)	3%以下(各年度)	
	退学者の割合(入学から1年以内)	1%以下(各年度)	
	就職支援に対する卒業時の満足度	90%(各年度)	
	進路(就職・進学)決定率	90%(各年度)	
	就職希望者の就職率	100%(各年度)	
	総合教育センター	2年次修了時までにTOEIC450点以上の到達者の割合	90%以上(平成30年度)
	学術情報センター	学生1人当たり年間図書貸出冊数	15冊以上(各年度)
	地域連携センター	全ての公開講座受講者の満足度	80%(平成30年度)
		外部資金の年間獲得総額	2億円以上(各年度)
	国際交流室	留学生受入数	120人(平成30年度)
海外留学派遣学生数		130人(平成30年度)	
国際交流協定締結校数		24校(平成30年度)	
経営企画室	科学研究費補助金の申請率(応募件数/教員数)	95%以上(平成30年度)	
	科学研究費補助金の獲得件数	80件以上(各年度)	
	外部資金の年間獲得総額	2億円以上(各年度)	

：統括担当のセンター又は室を示す。